

YWVOB会 会報 No.35

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

<http://hw001.gate01.com/hkanoh/index.htm>

2007年 3月 20日発行

～ 35号の目次 ～

- ・ 50周年記念事業実行委員会より・・・1 ・ 期別便り（7期）・・・8
- ・ 50周年記念誌編集委員会より・・・3 ・ 期別便り（17期）・・・13
- ・ 50周年記念海外登山のお知らせ・・・3 ・ 苗名小屋便り・・・15
- ・ 50周年記念・第19回OB山行案内・・・4 ・ 自由投稿（退職後田舎暮らし5年）・・・17
- ・ 2006年シニアOB月例山行報告・・・5

■ 50周年記念事業実行委員会より

50周年記念事業実行委員会・委員長 鈴木弥栄男（9期）

“世代を超えてYWV創立50周年を祝おう”

今年、1957年YWV創部から丸50年が経過した記念の年であります。

実行委員会がスタートし、2007年1月27日には41名もの実行委員や期の連絡係が、弘明寺にある横浜国大付属中学校に集まり、第1回目の実行委員会を開催いたしました。

まず、全体会議にて実行委員会の規約を決め、記念行事の概念について議論後、分科会に委員が分かれて、今後の詳細な進め方について審議、議論しました。

1.式典 2.記念誌 3.ホームページ 4.記念山行 5.山小屋記念山行と式典

と、五つの分科会であり、それぞれ概ねその方向性が決まりました。



その審議結果は、YWVOB会のホームページの中に、実行委員会のページを設けてそこに掲載されています。そのアクセス先は、この会報の表紙の上段に記載されていますのでご覧下さい。

初めての実行委員会開催に先がけて、いかに全期にまたがって会員に連絡をとれるか、とるかに意を用い、連絡係や実行委員を各期お引き受けしてくれるかにポイントを置きました。

お陰さまで98%にあたる44期が委員を引き受けられ、69%を占める31期が委員会に出席されました。

これは非常に画期的なことかと思えます。でもまだスタート地点に立ったばかりです。実行委員会としては、ホームページを十二分に活用しながら情報を公開し、多くの会員のご意見を参考にしながら進めて行きたいと考えています。

参加された方々は以下の通りです。

嘉納秀明 (1) 吉野大次郎 (2) 吉村元孝 (3) 井上 肇 (3) 谷上俊三 (4) 郡司直樹 (4)
諸角壮式 (5) 密島英二 (6) 林 誠一 (7) 白神逸夫 (7) 綾部和子 (8) 鈴木弥栄男 (9)
山本陽一 (10) 下村蓉子 (10) 安藤貞利 (11) 榎本吉夫 (12) 上野節子 (14)
小口雄平 (14) 鈴木道夫 (14) 西浦章予 (15) 中島一夫 (15) 小浜一好 (17)
山口貢三 (18) 中島輝夫 (19) 笛木久栄 (19) 西田雅典 (20) 白木政隆 (21)
横溝真司 (21) 鴨志田岳志 (22) 吉田剛 (23) 丸茂俊二 (23) 古川圭一 (25)
佐々木恵子 (26) 池野 元 (27) 久米一弘 (28) 松田哲治 (31) 小野恵美子 (34)
後藤誠史 (39) 石川 真 (41) 笠原正大 (41) 塩野貴之 (46) (敬称略)

の31の期の方々41名が参加しました。

13・16・24・29・30・32・33・35・36・37・38・40・42・43・44 の15の期はご都合で残念ながら不参加でした。



写真で同期の方や山行同行の先輩、後輩がお分かりでしょうか？
(一部早退されて記念写真には写っていない方がおりますが悪しからず。)

これからは、この委員達が、また連絡係が中核になり輪を広げて周知徹底し、各記念行事に多くの会員が楽しみ参加されるよう、そしてこの機会に期を超えた記念の年にしたいものです。

■ 50周年記念誌編集委員会より

記念誌編集委員長 下村 蓉子（10期）

創部 50周年を記念して記念誌「YWV50年のあゆみ」を発行することになりました。現在編集委員が手分けして記念誌編集作業に取り組んでいます。

主な内容は ①関係各位からのご挨拶 ②YWV 創部のいきさつと 50年の主なあゆみ ③各期の現役当時の活動紹介 ④山小屋の歴史 ⑤部室ノート「ともがき」から ⑥山小屋日誌から ⑦他校との連携活動 ⑧海外 PW ⑨遭難事故等重大事故のまとめ ⑩自由投稿 などです。

会員の皆様には今まで過去の資料提供等で多大なご協力を頂きましたが、今後ご協力を賜りますようお願い致します。（詳しくはホームページをご覧ください）

なお、記念誌は 11 月 10 日の記念式典で皆様のお手元にお渡しする予定です。

■ 「各期のページ」作成にご協力を

1 期から 50 期までの各期の現役時代の活動の様子を中心に期のページを作成して下さい。各期とも写真を入れて A4・1 ページ以内で綴っていただきたいと思います。そこから YWV50 年の変遷が見られることでしょう。

（詳しくは各期の連絡委員の方にメールでお知らせします。）

■ 「自由投稿」に原稿をお寄せ下さい

皆様にとってワングルとは何でしょうか。創部 50 周年を迎えて想うこと、ワングルとの繋がり、ワングルに望むこと、山の思い出、現役時代の忘れられないこと、山小屋の思い出、仕事のこと、家族のこと、友達のこと、徒然に想うこと・・・等、皆様の思いを自由投稿のページに是非お寄せ下さい。

<原稿のまとめ方>

A4 1 ページ以内（400 字原稿用紙 4 枚以内）

文字：MS 明朝体 10.5 ポイント（43 文字 46 行）

英数字：Century Gothic 余白：上下 20mm 左右 30mm

* 手書き原稿を郵送して下さい構いません。

投稿先：〒242-0006 神奈川県大和市南林間 2-9-18

TEL・FAX：046-274-9818

e-mail:shimomurayouko@ybb.ne.jp

■ 50周年記念登山（台湾・玉山）のお知らせ

記念登山委員長 安藤 貞利（11期）

YWV50 周年記念として、海外山行を計画しました。海外登山は、いろいろなツアーがあり、時間があればいつでも行けるようになっていますが、以前から気心の知れた仲間と行きたいと思っていました。50 周年はそのような海外山行を呼びかける良い機会と思い、一番身近な台湾の玉山を計画しました。日本からは、4 泊 5 日の旅ですが、実際の登山は 1 泊 2 日となります。

◎台湾 玉山 (ユイシャン)

台湾には 3000m の山が 100 座以上ありますが、玉山は、台湾中央部にあり台湾最高峰となっています。玉山は台湾に 6 つある国立公園の中の玉山国立公園にあり、登山ルートも整備され登りやすい山となっています。森林限界が、3500m 位にあるため頂上付近が、草原状の岩山になっています。気候は、5 月から 8 月が雨期で、9 月から 4 月までは乾期となります。5 月 6 月は梅雨による雨、7 月 8 月は台風による雨の季節となり、1 月から 3 月までは、頂上付近で積雪があり冬山登山となります。年平均気温は、3500m で 5 度、2500m で 10 度となっています。森林は、高度にともない熱帯雨林から亜高山針葉樹林まであります。

◎日程

- 4 月 29 日 (日) 成田 14:15—台北国際空港 16:45 (台北泊)
- 30 日 (月) 台北—嘉義—阿里山 (阿里山泊)
- 5 月 1 日 (火) 阿里山—塔塔加ツーリストセンター (2600m) —排雲山荘 (3400m) (泊)
(歩行 6 時間 10 分)
- 5 月 2 日 (水) 排雲山荘—150 分—玉山— (5 時間) —塔塔加ツーリストセンター
(歩行 7 時間 30 分) —台北 (泊)
- 5 月 3 日 (木) 台北国際空港 14:15—成田 18:25

玉山国立公園のホームページがあり、いろいろな情報が、載っています。

<http://www.ysnp.gov.tw>

■ 50 周年記念・第 19 回 OB 山行 (畦ヶ丸) のご案内

OB 山行委員長 小野恵美子 (34 期)

50 周年記念行事の一つとして、畦ヶ丸登山を予定しています。YWV のホームグラウンド、丹沢の自然を満喫し、その後中川温泉で宴会・宿泊する予定です。学生時代の思い出を心ゆくまで語りましょう。山行のみ、宴会のみのご参加も OK です。皆様奮ってご参加ください。

〔日 程〕 2007 年 5 月 12 日 (土)、13 日 (日)
(12 日 (土) に登山後 温泉宿に宿泊、13 日 (日) 10 時頃解散予定)

〔行 先〕 畦ヶ丸 (1292.6m)

〔宿泊先〕 中川温泉「蒼の山荘」

神奈川県足柄郡山北町中川 897 TEL 0465-78-3311

〔地 図〕 昭文社山と高原地図「28 丹沢」

〔集 合〕 小田急線 新松田駅 8 時 15 分

※ マイカーでお越しの方はお申し込みの際その旨ご連絡ください。

〔交 通〕 小田急線 新宿駅 6:51～新松田駅 8:13

〔行 程〕 新松田駅== (マイカーまたはバス) == 西丹沢自然教室 (9:30 頃) ——畦ヶ丸——
——一軒屋避難小屋——大滝橋——中川温泉 [歩程約 6 時間]

〔参加費〕 宿泊代 12,000 円程度

〔持ち物〕 昼食、水、おやつ、雨具、防寒具、その他登山に必要な物

〔申込み〕 参加ご希望の方は、4 月 10 日頃までに下記のいずれかにご連絡ください。

小野恵美子 (34 期) 電話 : 080-5517-7320 メール : emiko150@s9.dion.ne.jp

安藤 貞利 (11 期) 電話 : 044-422-0766 メール : saando@nifty.com

吉野大次郎 (2 期) 電話 : 090-6485-9268 メール : yoshino@r07.itscom.net

■ 2006年シニアOB月例山行報告

シニア月例山行委員長 塚原伸一郎 (2期)

■シニアOB月例山行

シニアOB月例山行は1999年1月に始まりました。2006年で丸8年続いています。シニアの集いの行われる月を除いて、毎月1回(ときには2回)、年に11~12回開催されます。

06年12月には通算90回を迎えました。このうち雨天による中止が6回ありましたので、実施は84回です。07年9月には通算100回を迎えます。

ちなみにシニアOBとは、1期から8期までの136名をいい、平均年齢は推定65.4歳です。

■2006年の月例山行

06年のシニア月例山行は、おおむね好天に恵まれ中止が1回もなく、予定通り12回実施されました。年間の延べ参加者は397名、平均33.1名でほぼ前年並みでした。

【1月22日】…第79回 初詣山行 鎌倉・天園、くもりのち晴、51名

- ・ 前日の大雪で、天園ハイキング(35名)と鎌倉寺社巡り(16名)に分割した。
- ・ 天園ハイキング組は、思わぬ大雪にアイゼンをつけたり、膝までもぐったりと大童であった。
- ・ 寺社巡りは、八幡宮、瑞泉寺がかなりの人出で、ろうばい、黄梅が咲いていた。

【1月28日】…第80回 入笠山、快晴、31名

- ・ 昨年に続き冬期番外として設定された。参加回数も通算し、定例月例の補完として皆勤賞もカウントすることになった。
- ・ シニア月例2度目の雪山、好天に恵まれ八ヶ岳、南アルプス、中央アルプスの大展望に恵まれた。
- ・ 雪は膝くらい、気温も高く快適な雪山ハイクであった。

【2月25日】…第81回 丹沢・大野山、快晴、33名

- ・ 前夜の雪はほとんど融けて道は歩きやすい。
- ・ 山頂は雪もなく、富士山、丹沢の山々の眺めは素晴らしかった。

【3月25日】…第82回 奥武蔵・丸山、日向山、快晴、32名、

- ・ 丸山コース(20名)と日向山コース(12名)の2コースを設定。
- ・ カタクリは少し早かった。アズマイチゲが満開。

【4月22日】…第83回 大峰山、快晴、34名、貸切バス

- ・ 雪が多くて直登道が通れず、吾妻耶山は割愛した。
- ・ 快晴、気温も低くなく快適な雪山ハイクであった。
- ・ 麓の桜と雪山とのコントラストは、絶妙な春の景観を醸し出していた。

【5月27日】…第84回 高原山・鶏頂山、雨、27名、貸切バス

- ・ 今年初めての雨、釈迦ヶ岳を割愛し、鶏頂山のみ登る。
- ・ オオカメノキ(ムシカリ)が白い花を咲かせていた。

【6月25日】…第85回 丹沢・三の塔、くもり一時雨、28名

- ・ 登り始めと下り後半小雨模様、頂上はガスで展望なし。
- ・ ニシキウツギ、ツリバナ、マユミがたくさん咲いていた。

【7月26日】…第86回 箱根・三国山 くもり、31名

- ・ 曇り空だが蒸し暑く、汗が止まらない。

- ・ 車のやり取りが難しく、コースは料金所で打ち切りとなった。
- ・ 今回で延べ参加者が 2,500 名を超えた。(2,502 名)

【8月24日】・・・第87回 八海山、くもり、35名、貸切バス

- ・ 今年一番の遠距離だが、道路は往復とも順調であった。
- ・ 展望はなかったが、さすが二百名山、充実した登り下りだった。クサリ場で渋滞し、下りのゴンドラは最終となった。
- ・ 花はそれほどでもなくノリウツギやヤマアジサイが少々。ハイヌツゲの赤い実がたくさん実っていた。

【9月30日】・・・第88回 草津・本白根山、晴のちくもり、30名、貸切バス、

- ・ 朝は晴れていたが登山するころにくもり。横手山、笠ヶ岳はよく見えた。
- ・ リンドウ、ゴマナ、ヤマハハコが至るところに咲いており、紅葉はかなりの見ごろであった。
- ・ 往復の道路も空いており、渋滞は1度もなかった。

【11月25日】・・・第89回 赤城・地藏岳、長七郎山、快晴、31名、貸切バス、

- ・ 快晴、まさに日本晴れで360度の大展望に皆歓声をあげた。
- ・ 会津駒から、燧、至仏、日光白根、武尊、巻機、谷川、奥秩父、富士山と福島、栃木、群馬の山々が手に取るようによく見えた。
- ・ 山道には霜柱があるものの暖かく、快適な秋山ハイクであった。

【12月16日】・・・第90回 陣馬山、晴のちくもり、34名

- ・ 今年の忘年ハイクは陣馬山、お昼までは晴れていて富士山や丹沢、富士周辺、扇山、権現山、小金沢連嶺の山々が見えた。
- ・ 12月とは思えぬ暖かさで歩くと汗ばむほどであった。
- ・ 終了後、バス停にて06年の月例表彰を行った。皆勤賞は12名、企画賞は2件。
- ・ 今年で丸8年、通算回数は90回、通算参加者は2,632名、平均参加者は31.3名である。



06.9.30 草津白根山

■2006年実施状況

[月例記録]

回	月	コース	天候	幹事	参加者	備考
第79回	1.22(日)	A.鎌倉天園 B.寺社巡り	△～○	7.小林	51	天園35、寺社16
第80回	1.28(土)	入笠山	◎	7.小林	31	
第81回	2.25(土)	大野山	◎	8.田中	33	
第82回	3.25(土)	A.丸山 B.日向山	◎	1.嘉納	32	丸山20、日向山12
第83回	4.22(土)	大峰山	◎	2.塚原	34	貸切バス
第84回	5.27(土)	高原山	×	3.腰塚	27	貸切バス
第85回	6.25(日)	三ノ塔	△～×	4.谷上	28	
第86回	7.26(水)	箱根・外輪山	△	5.亀井	31	
第87回	8.24(木)	八海山	△	6.岡田	35	貸切バス
第88回	9.30(土)	草津白根山	○～△	7.小林	30	貸切バス
第89回	11.25(土)	赤城・地蔵岳	◎	8.田中	31	貸切バス
第90回	12.16(土)	陣馬山	○～△	1.嘉納	34	
					397	月平均 33.1

[2006年皆勤賞]

期	氏名	摘要
2期	吉野大次郎	7回目
2期	北見美智子	2回目
3期	腰塚典明	8回目
3期	白井信行	3回目
3期	吉村元孝	2回目
3期	金田精彦	初回
4期	谷上俊三	2回目
4期	大黒美代子	2回目
6期	桜井素子	初回
7期	古宮智津子	5回目
7期	林誠一	3回目
7期	下村蓉子	初回

[50回参加賞]

期	氏名	通算回数
6期	岡田光豊	54
6期	岡田美奈子	51
6期	松本君子	51
7期	松本弘道	57
7期	林誠一	59

[30回参加賞]

期	氏名	通算回数
6期	吉村元孝	35

(通算回数は06年12月現在)

■年度別実施状況

[企画賞]

年	月	コース	幹事
00年	12月	石割山	7期小林
01年	6月	尾瀬ヶ原	4期斎藤
01年	11月	大菩薩嶺	2期塚原
02年	5月	甘利山	7期小林
03年	5月	榛名山	2期塚原
04年	03.12月	仏果山	8期田中
04年	1月	宝登山	1期嘉納
05年	9月	箱根仙石原	4期谷上
06年	1月	入笠山	7期小林
06年	11月	赤城・地蔵岳	8期田中

[参加者数]

年	実施回数	参加者	1回当たり
99年	10	238	23.8
00年	11	304	27.6
01年	10	317	31.7
02年	9	340	37.8
03年	11	337	30.6
04年	10	332	33.2
05年	11	367	33.4
06年	12	397	33.1
計	84	2,632	31.3

[参加者数ベストテン]

順位	コース	年月	幹事	参加者	摘要
1	A.鎌倉天園 B.寺社巡り	06年1月	7期小林	51	OB会と合同、貸切バス
2	鎌倉・源氏山公園	02年1月	3期江崎	47	
3	三原山	05年1月	4期谷上	46	
4	磐梯山	04年8月	8期田中	45	
5	大菩薩嶺	01年11月	2期塚原	43	
5	日光・白根山	02年6月	8期池原	43	
5	幕山	05年2月	5期亀井	43	
8	パノラマ台	02年3月	5期亀井	42	
8	甘利山・千頭星山	02年5月	7期小林	42	
10	仏果山	03年12月	8期田中	40	
10	宝登山	04年1月	1期嘉納	40	

■2007年シニア月例山行予定

(*貸切バス利用)

回	月日	行先	回	月日	行先
第91回	1.20(土)	(三浦)三浦富士・武山	第97回	6.17(日)	(南ア前衛)入笠山*
第92回	2.3(土)	(八ヶ岳)北横岳	第98回	7.25(水)	(信州)根子岳*
第93回	2.24(土)	(丹沢)高松山	第99回	8.23(木)	(日光)赤薙山
第94回	3.24(土)	(伊豆)巢雲山	第100回	9.29(土)	(信州)美ヶ原*
第95回	4.22(日)	(箱根)外輪山	第101回	10.20(土)	(上州)荒船山*
第96回	5.26(土)	(野反湖)八間山*	第102回	11.23(土)	(丹沢)大山

■ 期別便り（7期）

林 誠一（7期）

昭和42年（1967年）卒業の7期は、27名というYWVで最大の同期生グループで、現在も音信不通の北見と早くに亡くなった下村（平成12年逝去）、加納（旧姓岡村、平成13年逝去）、八島（平成18年逝去）以外の23名とは連絡を取り合い、活発に活動をしている。今年の1月にも伊豆長岡で7期会が開催され、元気に18名が集った。



2007.1.21 7期の集い（伊豆 長岡温泉）

大学を卒業後は故下村が中心となって7期をまとめ、7期会や月例山行の企画、連絡などを積極的に行ってくれた。下村の突然の死後、小林、服部、松本、八島、岡村などが遺志を継ぎ、以前に増して活発に活動するようになったが、岡村、八島も病に倒れた。彼らの死が7期を一層まとまりのある会に仕上げた。

林（筆者）も再び山行に参加するようになったのは、下村の葬儀で仲間に来て話を聞いたことと、会社に勤めていた頃、あるユーザーを訪問したとき、その会社の上司として出席していた4期の斉藤貞夫先輩と偶然再会し、斉藤さんが月例幹事であった黒斑山を勧められ、参加したところ、下村夫人や7期の月例常連が暖かく迎え入れてくれたことが大きい。

7期はメーリングリスト（ML、電子メールを使ったインターネット活用法のひとつで複数の人に同じメールを配送できる仕組み）というのにほとんどの人が参加している（参加率90%）ので、会員への連絡が迅速、容易だし情報の共有化ができています。

このMLは月例や7期会の連絡だけではなく、いろいろな情報が飛び交う。例を挙げてみると、最近観た映画の感想（例えば、「不都合な真実」は見たほうがいいのか）、読書体験（例えば筆者は「今日の一冊」と題して有用で面白い本を毎日紹介した）、中国出張報告（ノジヤンのクーニャンとの攻防記）、写真教室、山行報告、近況報告等々。

この7期はまた専門家集団でもある。経済、金属（宝石）、化学、化学工学、電気、機械、環境、教育などあらゆる分野の専門家が集まっており、何か疑問が生じたとき、MLにその疑問を投げかけると、たちどころに的確な答えが返ってくるので、優秀なブレンやシンクタンクやデータベースを持っているようなもの。

最近の例でも、「パソコンの使い方がわからない」「地球温暖化の原因は」「水素エネルギーの将来」とか、「コエンザイムQ10を老母に飲ませたいけどどうだろうか」とか、「どこの株が買い時か」とか、「写真の撮り方を教えて」とか、「こんな伴侶とこのまま一緒にいいか」など多種多様な疑問とそれにたいする解答が行き交った。読んでいるだけでためになるし楽しい。

筆者も長女から「円周率はどうして出すの」と聞かれたとき、わからなかったので、早速専門家集団に相談したところ、大学で数学を教えているジーコ（後述）が徹夜で考えてくれ、翌日寝不足のまま一緒に八ヶ岳縦走し、赤岳山頂で答えを教えてもらったことがあった。

遭難しなくてよかった。

言いたいことも遠慮なく言え、毒舌でも心優しいやつが多く、仕事も、専門も違う中年グループは得がたいもので、生涯大切にしたいし、こんな仲間を持っていることを誇りに思う。

もっと高齢者になったら、山を眺めながら、お互い助け合う共同生活をしたい。

7期の皆はすでに全員還暦を過ぎているが、活動はエネルギーだ。まず、シニアOB月例山行には毎回最多数の仲間が参加する期だし、昨年の皆勤は2人、そのうちの1人は筆者だが、もう1人の女性は、5年連続皆勤の快挙。



(写真1)

直近の3年間の7期人による主なPWを振り返ってみると、
2004年2月 南八ヶ岳（東天狗—西天狗—中山峠—
白駒池—丸山）

7月 南アルプス（光岳—易老岳—聖岳）

9月 中央アルプス（木曾駒—宝剣岳—空木岳）

10月 栗駒山

10月 南八ヶ岳（編笠山—権現岳—赤岳—横岳—硫黄岳）



(写真2)

2005年 5月 男体山（写真1）

6月 鳳凰三山（写真2）

7月 楕形山（写真3）

8月 北アルプス（薬師岳—雲ノ平—三俣蓮華—
—双六岳）（写真4）

10月 北アルプス蝶が岳

12月 両神山



(写真3)

2006年 5月 会津駒ヶ岳
8月 鳥海山、月山、蔵王
11月 裏妙義山



(写真 4)

最近の7期の活動は、海外まで手を広げ、
2005年3月 7期5人と8期、10期各1人の混成による
ニュージーランド（南島、クィーンズタウンーミルフォードトラックーマ
ウントクックークライストチャーチ）の旅
(写真5・6)

2006年6月 7期5人と6期2人、8期、10期各1人の混成による北京、万里の長城ウオー
キング (写真7)

2006年9月 7期4人に6期2人、10期1人を加えた7人によるカナダバンフ、ジャスパー、
バンクーバーの旅 (写真8)

などが主なPWでこれからも年に1回はでかけるつもり。



(写真5) 夕日に映える Mt.Cook



(写真6) サウスアイランドエーデルワイス



(写真7) 万里の長城を歩く



(写真8) バンクーバー・ブッチャートガーデンにて

7期のみんなの近況を手短かに報告する。各人親しみを込めて通称（愛称）で呼び合うことが
多いし、またそれがその人の特徴をよく現れているので、付記したが、必ずしも本人が納得して
ないのもある。誰がつけたか不明。

以下部員番号順に紹介する。

服部（通称クダリスト、登りはだめだが、下りは得意なので、別称ケロとも）

投資アナリスト、現役の会社重役として働いている。夜の銀座に行く与会えるらしい。

細田（通称ジーコ、サッカーがうまいのではなく、未だ黒電話をジーコジーコと回して長電話してくるので）年に2回アメリカに行くのは、現地で何か遣り残したこともあるのかも。先日、一緒に雪の八ヶ岳に登ったが、自宅より山小屋の方が暖かいので、毎日が耐寒訓練しているみたいなんだと（自宅には暖房もテレビもパソコンも携帯もない）。

小林（秀）（通称ヒゲコバ）

シニアOB月例の幹事として、素晴らしい山行を企画し、すでに何回も企画賞を受賞している。近々ラオスの子に会いに行くんだとか。

能地（通称ノジヤン）

しょっちゅう中国に技術指導に出向いている。胃腸が弱いため（胃は無かったんだ）、中華料理は食べられず、現地では食生活に苦勞している。国内でも夏は山には行かず、読書しながらじっと暑さが過ぎるのを待つ。

井上（通称教授、ヨシオー）

奥さんが腕を怪我したので、早速得意な料理の腕を活用、家事はプロフェッサー級、手作り餃子は講義よりうまいと学生に好評。その講義中も親父ギャグを連発し、女子学生に寒がられ「何でうけないんだろう」と悩む毎日。

鈴木（通称タダシ）

腰を悪くして、山には行けなくなったが、山で覚えたタバコだけは何としても止められないと言う希少人種の一人。最近是新居に移り、主夫業専任。

山田（通称シンゴ）

小松市在住の上まだ現役で働いているため、なかなか出てこないが、時々メールで雪国の様子を知らせてくれる。

蓉子（故下村夫人、旧姓早川、本来10期だがほぼ7期人、通称ヨーコ）

先生を辞めたら鎖を解き放たれたように外国に出かけている。時には米寿の父親を連れて。時によっては酒乱傾向があるので、酒席では離れていた方が無難。

松本（自称テクテク、よく歩くので）

退職後糸の切れた凧のように海外や南（光、聖、赤石、荒川、白根三山）、中央（木曾駒、宝剣）、北アルプス（前穂、薬師、雲ノ平、双六など）に出かけ、健脚を誇っている。手打ちそばや語学（スペイン語、中国語）に造詣が深い。胃無人なのに、痩せていない。

林（通称リーチャンイー、自称884）

7期で一番背が高い以外特になし。山や各地、海外で花の写真を撮り、カレンダーに仕上げ、売りつける。7期のみんなの遺影を撮り貯めて少しでも役に立ちたいと思っている。下らない山行報告記を書き、つまらない写真や役に立たない情報をMLに送りつけ、迷惑がられてもいる。

橋本（旧姓佐久間、通称トロイ姫、誰が付けたのかなんとも優雅だが・・・）

お茶屋の看板婆、最近お茶が売れないと。天然ボケと老人ボケが合体しつつあるのでとろさに磨きがかかった。

菅谷（旧姓東田、俳人トモジョ）

大手出版社の編集者で人の文章にケチをつけるのを得意としているが、本人の文章や自作の句を公開したことはない。

北村（通称エロ牧師、学生時代から）

通称にそぐわず、校長をしていた。日本の教育が危なかった。メタボシンドロームで体も危ないと医者に脅されている。体重を落とした方がいいかも。

今井（通称ターボー）

教育者の一人、最近海外勤務（香港が長かったが、今年アメリカの日本人学校へ校長として赴任予定）が多いので、国内の生徒にはあまり被害はないのが救い。

時々バイクでぶっ飛ばす中年暴走族。

森田（旧姓中島）

トランプゲームのブリッジが命よ。山に行くことは少なくなったが、テニスは得意。

久保木（旧姓山室、通称クボッキー、カッコ）

生まれて初めて 3000 メートル峰を登ったのが前穂（数年前のこと）、感激しまくり。その勢いで屋久島宮之浦岳も登っちゃった。今年常念岳に登りたい。見た目が7期で一番若いのが自慢。

坪（通称アッキー）

鎌倉で母親の面倒をみている。あまり外出も出来ない。

鈴木博子（通称ヒロッキー）

書はまかせて。やはり老母の介護で外に出られないが、7期会には時々顔を出す。

小林桂子「旧姓駒形、自称桂処（かつらこ）の女将（おかみ）、桂処という陶器屋を一人で切り盛りしている、暇なので読書が捗る」

孫が増えちゃって名前が覚えられず、まごつくわ。4人の孫すべて男の子、5番目は女の子がいい。夫婦（旦那はヒゲこと秀臣）で酒飲みなので、2人の子供たちは小さいときから酒の肴（白子、牛タン、塩辛など）が好物。どんな育て方をしているやら。

南雲（旧姓佐々木、通称カズチャン）

身体的特徴から普段、見上げて話すことが多いので、山行で休憩のとき人より上に行って仲間を見下ろす癖がある。また、山に出かけた折、しょっちゅう行方不明になるので、行動には要注意。地元の山クラブにも所属し、毎月 YWV シニア OB 月例とどちらに参加するか迷う。

白神（通称ガミヤン）

敬老精神の篤い北京に行って地下鉄に乗ったら、前に座っている人がすっと立ち上がり、席を譲ってくれた、しかも2回も。嬉しいやら悲しいやら。

そこで一句「わが身より 7期のみんな 若く見え」

奥野（通称ヒゲクマ）

母より先に死ねない。母親孝行息子。静岡在住。ブログには車の話だけ。

小木曾（通称オギー、ペケセン）

太っているので社長の風格がある。昨年9月のカナダPWではリーダーとして尽力、いろんなトラブルを精力的に乗り越えた。愛称のペケセンは仕事がX線を扱っていて、Xはペケとも読めるので。

古宮（旧姓荒川、通称コミヤン、地図が読めないチヅコ）YWV シニア OB の月例が命よ。アラスカにオーロラ見物、スイスへアルプス登山に出かけている。旦那の突然の病気で髪の毛すべて白くなったが、気品があり、老貴婦人風。

北見（音信不通、行方不明）誰か手掛かり持ってないですか？

■ 期別便り（17期）

小浜 一好(17期)

17期は今年、大学卒業30年を迎えます。同期の大部分は子育てが一段落し、会社等でも、どうやら先が見えて来た感があります。

一つ二つは病気を抱えながら、山行や体力づくりなど健康増進に取り組んでいます。これからが人生のお楽しみですから。

同期の集まりも年一度程度は開催し、(最近も1月に横浜で11人が参加)旧交を温めています。学生時代の仲間は宝物、女性に君付けで呼ばれることが新鮮です。

それでは各自の近況を報告します。

梅野匡俊

YWVを卒業してちょうど30年たちましたが、あっという間のように感じています。卒業後の山行も、最初は新潟勤務ということで新潟県内の山へ頻繁に行っていましたが、結婚し子供ができてからはキャンプ中心、その後皆で尾瀬に行ったり、今は山好きの長女と奥多摩や奥武蔵にハイキングと段々と変化してきました。長い間山に行く気持ちを持ちつづけられたのも、山の楽しさ、すばらしさを教えてもらったYWVの4年間があったからと考えています。これからは、花や木々を見ながらゆっくり歩く山行を続けたいと思っています。

葛窪真紀子（旧姓菱沼）

5年前の冬、夫が突然黒姫に住むと言い出し、夫は単身、黒姫でコテージ（貸し別荘、コンドミニアムともいう）を始めました。黒姫と聞けば迷うことなく、私はあとさき考えもせずOKしてしまいました。子供の学費はどうするんだ！その後いろいろな現実問題に直面しましたが。

でもまあ、お陰で月1回は黒姫に行き、四季折々、妙高周辺の山々にはすっかり詳しくなりました。笹ヶ峰にもちょっとそこまでの感じでいくことができるのもかなりうれしい要素です。家の窓からは妙高山が見え、苗名小屋の立っている場所も見当がつき、望遠鏡をセットし目を凝らして見えています。

黒姫は癒しの森にも認定されていますが、本当によいところです。みなさん是非お立ち寄りください！

小浜一好

一人娘も社会人となり、横浜市役所勤務も30年、いつの間にか長い時が過ぎました。この2、3年はずっとご無沙汰だった山を再開し、OB山行をはじめ、夏の北アルプス、冬の八ヶ岳散策など、季節ごとの自然を楽しんでいます。

今年はYWV50周年で、僕も山行分科会の一員として魅力的なイベントを計画します。この機会に同期だけではなく、YWVのお付き合いの輪を広げていただければと思います。最初は面倒くささがあるかもしれませんが(実は僕もそうでした)世代を超えて山仲間、YWV仲間はいいものです。



白須謙治

最初の勤務地が名古屋、その後結婚したこともあり、YWV 同期の連中と御岳に登ったり、会社の仲間と近くの山へ数回行く程度で何となく山から遠ざかってしまいました。

大学卒業 30 周年を迎え、長女は昨年未結婚、私自身も今年の 3 月には三菱信託を退職する等新しい人生が始まろうとしています。体力は落ちていますが、ここ数年山へ行きたいなという気持ちと、昔の山行の思い出が妙に懐かしく感じられます。OB 山行に参加させていただいたり、家族で尾瀬等花や自然を楽しむ機会を増やしていきたいと思っています。

蟻川欽也

もう長いこと山には登っていません。ただ、3 年前から、キャンプ用品を一式買い揃え、家族でオートキャンプ場に行くようになりました。テントの生活やコンロでの炊事に、ワンゲル時代を思い出します。便利な道具が出現し、品質の向上も目覚ましく、隔世の感があります。

山に行かない代わりという訳ではないのですが、7 年ほど前から、少し走るようになりました。月に 4~5 回、1 回 10Km 程度ですから、たいしたことはありませんが、2 月 18 日の東京マラソン 2007 フルマラソンの部に出場し、自己ベスト(といっても 5 年振り 2 回目のフルマラソンで、前回より良いというだけ)で完走しました。普通は走ることのできない都心の車道を、大観衆の中、ところどころで知人から声援を受けて走るのは、何ともいえない高揚感があり、病み付きになりそうです。

普段は多摩川の土手や会社帰りに皇居の周りを走り、時々、仲間と市民大会の駅伝や 10Km・ハーフマラソンに出たりしています。走った後のアルコールが楽しみでやっているようなところもありますが、なかなか楽しいものです。今後は機会があれば、また山にも登ってみようと思っています。

長谷川三津子(旧姓穴山)

卒業後、山とは無縁の生活を送っていましたが、17 期で会おうよ! と同期会が始まり、久々に懐かしい顔合わせをし出すと、無性にワンゲルが恋しくなっています。

一昨年に、葛窪(旧姓菱沼)さんと一緒に山小屋を訪れた時は、一気に時間がタイムスリップして、20 才の頃の自分に戻るという幸せを体験できました。山小屋があつてよかった!

今年の 50 周年にさらに懐かしい方々とお会いできるのを楽しみにしています。

山下 暁

社会人になってからも、細々ではありますが、山登りは続けています。その中でも強く思い出に残っているのは、台湾の玉山、厳冬期の富士山、北海道のクワンナイ川を遡上し大雪に登った 3 つの山行です。去年は、1 月に秩父の両神山、3 月に屋久島の宮之浦岳、そして 6 月に水芭蕉を見に尾瀬ヶ原に行ってきましたが、後半はばててしまい山には行かずじまいでした。

あと数年後に控えた定年までには、何とか日本百名山を踏破したいと考えています。ここ 1・2 年で山の道具を少しずつ買い換えています。軽量化と品質の向上には隔世の感があります。今年は、まだ高尾山へしか行っていません。

渡辺雅子(旧姓小河)

大学卒業後は、友達と安達太良山や大雪山・トムラウシをテント持ちで縦走したのが印象的でした。その後、結婚、子育て、仕事と忙しく山から離れていましたが、息子、娘も成人し、OB 山行のお誘いを受け 2 回ほど参加しました。それを機に山へ行く機会も増えております。教師の仕事も体力が大切な面もありますので、いつでも山へ行けるような体を維持していきたいと思えます。

■ 苗名小屋便り

現地小屋委員 鈴木 道夫（14期）

今年の冬は世界的な暖冬になっていますが、苗名小屋も今シーズンは非常に降雪が少ない日々が続いております。昨シーズンの豪雪がまるで嘘のようです。

後藤小屋委員長の呼びかけに応じて2月10～12日の3連休に今シーズン初の小屋雪下ろしが実施されましたのでご報告します。



参加メンバーは早朝に車で東京を発った安藤（11期）・笹倉（30期）組、JRでやってきた榎本さん（12期）、地元長野市の小口君と上越市の鈴木（共に14期）が初日の午前10時に妙高高原駅に集合し、スーパーで買出し後に五八木荘に向かいました。

なお、11日からは長野市の田中さん、新潟市の村山さん（共に34期）が小屋入りしました。

『五八木荘とリフト乗り場まで』

悟おじいさんの様態は昨年同様に自室で静かに眠る毎日だそうです。おばあさんがいつも同室しておられます。ご長男の究さんからお茶や菓子を頂きながら「今シーズンは雪が少ないので、五八木荘のお客さんの入りは少ないのですか？」とお尋ねしましたら「まずまず平年なみのお客さんの数でして、ひと安心しています。」とのことでした。究さんからは差し入れとして地元のお酒「君の井」を1升瓶で頂きましたし、車3台も五八木荘の駐車場に停めてよいとのこと、いつもそうですが今回も大変お世話になりました。

さて5名はスキー場へ向かいました。小屋へは有料リフトに2回乗るのですが、いつも安藤さんがシニア割引（55歳以上は500円×2枚が2割引で計800円）なのを見ていましたので、今回は勢いよく小口君と一緒に「シニアです！」と売り子嬢に声をかけました。よく考えたら喜んでばかりいられませんね。14期も昔ならば定年の年齢になりました。

『小屋の様子』

スキー場の積雪は少ないものの、ブッシュが見えるようなことはありませんでした。ガスの中を滑り小屋が見える所まで来ましたら、遠くに雪掻きをしている親子連れの3名が見えます。22期の鴨志田さんと24期の鴨志田令夫人、そして小学5年生のお嬢さんでした。

ご家族は昨年秋、そして正月休みにさらに今回と、続けて3回も小屋に来て下さいました。ありがたいことです。今後は15期から20期台が次第に小屋に戻って来てくれるのではないかと、そんな予感がしました。鴨志田ご一家は夕方前には予約した宿へ出発されました。



さて、小屋の雪です。屋根のとんがり帽子には1mほどの雪が載っていましたが、大屋根にはきれいなにもありません。例年ならば最も積雪の多い2月にこのような小屋を見るのは初めてです。榎本カメラマン撮影の写真をご覧ください。

2003年の屋根葺き替え工事の折にフッ素樹脂塗装鋼板を選んだことや、従来の棒葺きから横葺きに替えたことが今シーズンは自然落雪という効果をもたらしたようです。小屋周囲の積雪は、1～1.5mというところでした、いつもの1/3位で

しょうか。4本の斜め柱の雪掘り、小屋周囲の雪掻き、造林小屋の雪下ろしまで初日の半日で終えてしまいました。一昨年に新装なったトイレも含めて損壊箇所も見当たりません。

もちろん小屋に雪が吹き込んだ跡もありません。残念ながら小さなネズミ一匹の死骸が水盤にありました。さあ明日から何をしようかと心配になるほどの呆気ない除雪作業でした。

なお11日の朝には新雪が約40～50cm積りました。次の仕事が出来たぞと、皆嬉しそうな顔になったのには思わず苦笑いです。

11日の午後には田中・村山組が小屋入りして早速に除雪作業を行いました。尚、小口・鈴木組は所用があつておふたりにはバトンタッチ出来ずに先に下山させてもらいました。

『小屋の話題など』

適度な運動のあとに暖かい豆炭コタツに寛いで、ビールにウィスキー、焼酎もあれば地酒（君の井）もあり、とりどりのアルコールと共に海鮮鍋料理を楽しみました。

（肉も入れましたが気付いてみたら、どうやら野菜と海産物中心のシニア料理になっていました。）

皆さんの話題は創部50周年行事や今後の小屋活動の在り方など、和やかに夜は更けていきました。

私ごとになりますが、入社同期仲間と酒を飲みますと、若い頃は仕事の話、中年になっては子供の話、最近は健康の話へと推移してきました。

でもさすがにYWVのOBです。自分達の健康の話はほとんど出ませんでした。皆さんたいへん健康ですし、熱心に小屋の将来を考えています。

しかし最近小屋活動メンバーが固定化してきており、新たなメンバーの参加を待っています。共に汗を流してうまい酒を酌み交わしませんか。雪原の上、唐松林の先にはオリオン座やカシオペア座が煌めいており静寂な夜でした。

（この後で深々と雪が降りました。）



■自由投稿（離職後田舎暮らし5年）

宮崎 紘（2期）

日の出少し前、西側の窓のカーテンを引くと、晴れた日には甲斐駒のモルゲンロートに染まった勇姿が目飛び込んでくる。この素晴らしい眺めに5年経った今でも一日の英気をもらったような気になる。秋から春にかけて頂に雪を頂いた季節の朝の甲斐駒の眺めは最高である。

都会住まいの友人からは「そんな不便な山里で毎日何しているの？」とよく聞かれる。うまい返事は出来ませんが、退屈、無聊をかこつとといった思いは一度もしたことはない。5年経ったら自給自足なんて思っていたがこの実現には未だ程遠い。でも、ささやかな菜園で収穫した野菜には味は別にしても愛着を覚える。

実のなる木も何種類か植え、ベリー類などと共に秋には収穫の喜びがそろそろ体験出来そうになって来た。これまでに、桑、苺、ブルー、ブラックの各ベリー類、冬はリンゴなどで自作のジャムが冷蔵庫から絶えることはない。

「仕事を離れたら山小屋暮らしをしよう。」と思い始めたのはいつ頃だったろう？多分ワングルの部活動をしている頃だったように思われる。定年間近になって「終の棲家」の山小屋をどの辺りにしようかと候補地探しを始め、たまたま最後の仕事場所が富士山の麓町富士宮であったこと、東京圏に住まいするワングルOB諸兄がたまには訪ねて来て頂ける場所として、八ヶ岳南麓、西に南アの甲斐駒の勇姿を望み、南に富士山を遠望出来る風光明媚な旧明野村に決めた。

生まれ故郷に戻って暮らすと言う人は多いと思う。確かに幼馴染は沢山いるかも知れないが、私の出身九州の中都市には故郷と言える子供の頃の自然はもう残っていない。

それだったら生まれ故郷でなくても自然豊かなところの方がいいとも思った。でも、子供の頃毎日眺めていた周囲の山のスカイラインが、今眺めている鳳凰山から甲斐駒にかけてのスカイラインにどこか似ているような気もしないではない。

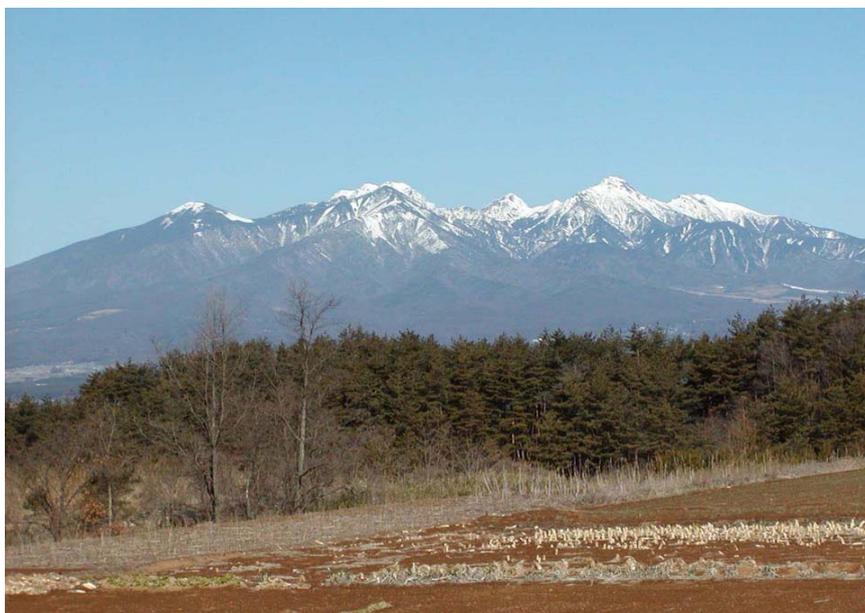
移住当初はポツンと一軒家であったが、5年の間に関東圏からの移住（予定）者が相次ぎ、間もなくご近所は10軒の集落になろうとしている。

旧明野村は10数年前から、私の住所である浅尾集落の上流（飲料水水源涵養地）に「産業廃棄物埋め立て処分場建設」の計画があり、その建設反対に組することによって、反対派の旧村民とも急速に親しくなることが出来、静かな山里暮らしとは真反対の生臭い、チョット煩わしい暮らしの渦にも巻き込まれている。親しくなった農家の方が、春にはレタスを何個も「これ食べろし！」と言って持って来てくれたり、秋には大根、白菜など、どさっと持ち込まれたりする。初めはちょっと戸惑ったりしたけれど、新住民は、農家の方があげると言って届けてくれた物を断ってはいけないと先輩移住者に教えられ、今では「ありがとう！」と満面笑みの顔で頂くことにしている。

田舎暮らしの先輩、タレントの「岸 ユキさん」に言わせると老後の田舎暮らしには静かな暮らしの中にも「チョット煩わしい」と思われることが必要なのだそうだ！

あと何年こんな生活が出来るかわからないが、健康に留意しながらしばらくは今の暮らしを楽しみたいと思っている。

春にはカタクリ、ヒトリシズカ等の山野草、夏はサクランボやブルーベリー、向日葵、秋には恩賜林の紅葉、冬は雪景色、こんな山梨の自然の中での里山暮らし、OB諸兄にはご興味ございませんか？



冬の八ヶ岳 明野より

YWVOB 会会報第 35 号

発 行 : 横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

発 行 日 : 2007 年 3 月 20 日

発 行 責 任 者 : 嘉納 秀明(1)

編 集 責 任 者 : 編集委員長 下村 蓉子(10)

編 集 : 編 集 委 員 松本真理子(8)

印 刷 所 : 株式会社 カワチャ・プリント (東京都港区新橋 5-31-7)

編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。